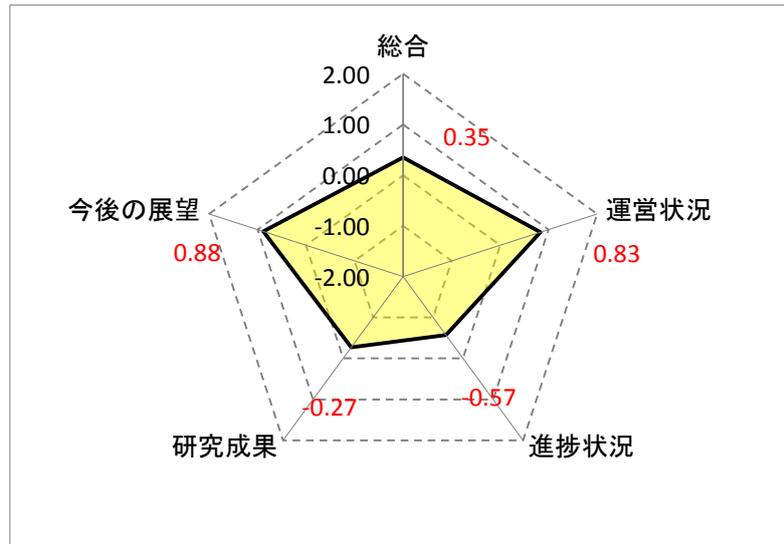


戦略的研究推進センター平成26年度研究プロジェクト評価

研究プロジェクト：萌芽研究部門

オープンデータ解析モデルの構築と地域への効果の研究

	総合	運営状況	進捗状況	研究成果	今後の展望	得点の平均
得点	0.35	0.83	-0.57	-0.27	0.88	0.24
評価	C+	B-	D+	C-	B-	C+



(評価コメント)

各評価委員による各項目の評価結果は次の通りである。

- ・総合評価：A (+2) が1名，B (+1) が10名，C (-1) が6名，平均点が0.35
- ・運営状況の評価：Bが11名，Cが1名，平均点が0.83
- ・計画の進捗状況の評価：Bが3名，Cが11名，平均点が-0.57
- ・研究成果の評価：Bが4名，Cが7名で，平均点が-0.27
- ・今後の展望の評価：Aが2名，Bが12名，Cが2名で，平均点が0.88

各委員からは，全体としてプロジェクトが目標に沿って進展し実用化が期待されること，地元行政と7件の共同研究などによる連携を進めてビッグデータを活用する仕組みを作ったこと，積極的にセミナーや勉強会などの地域イベントを開催し情報発信や社会貢献を行ったこと，小さな研究グループにも拘らず幅広い分野で成果を上げていること，論文や講演の発表が活発になされたこと，地域包括ケアや救急医療へ活用があることなどの点が評価されている。一方，集積データを自動的に統計解析するアプリケーションツールが開発できなかったこと，研究計画の見直しや工夫が必要なこと，Rubyで開発することのメリットが不明瞭なこと，各メンバーの研究や細かい事例研究をどのように有機的にプロジェクトテーマに繋げようとしているのか（プロジェクトテーマに対するメンバーの役割分担）が分り難いこと，Web of Scienceに掲載された論文がないことなどの問題点が指摘されている。

本研究プロジェクトは初年度であったため，1年間のうちに成果まで求めるのは性急であるとも思われるが，重要な自動統計解析ツールが開発できなかったために，進捗状況と研究成果について厳しい評価が下されたものと考えられる。次年度に自動統計解析ツールを開発する目的が立っていることから，「期待」が込められて今後の展望の評価が高くなったものと推測される。この期待は，本研究プロジェクトの成果が地域社会から強く求められていることの証左でもある。最終となる次年度に，各評価委員からの指摘事項を踏まえ，地域社会から期待されているようなアプリケーションツールの開発とデータ解析に成功し，研究成果が地域社会へ還元されることを願うばかりである。また，本研究プロジェクトの学術的価値を，国際的に評価の高い雑誌への掲載を通して，広く世界へ向けて公表することが望まれる。